

笹森 壽子（ささもり・としこ）

1、プロフィール

広島に生まれる。父は旧幕臣、母は男爵家の人。昭和6年、宇都野研主宰の「勁草」に入り、教育者・クリスチャンとして、また政治家笹森順造夫人として高い心境の短歌を発表した。

<生没>

1897(明治 30)年5月 21 日 ~ 1981(昭和 56)年6月 30 日

<代表作>

自選歌集『むつのはな』(昭和 40 年)『新萬葉集』(改造社、昭和 13 年)に 23 首(「勁草」発表作品)収録。

<青森との関わり>

弘前女学校で教鞭をとる。東奥義塾長笹森順造(のち国務大臣)夫人。成田憲三らの「弘前短歌会」「勁草弘前支部」結成に参加。

2、作家解説

笹森壽子は本名笹森壽(とし)。明治 30 年5月 21 日、父金子直壽(旧幕臣、陸軍中佐で若く病没)と母勝子(陸軍中将男爵山澤静吾次女)の次女として広島に誕生(戸籍上は東京市麻布)。東京府立第三高等女学校卒業。大正9年3月東京女子高等師範学校卒業、在学中に入信した。大正9年から、オークランドのミルス大学、ニューヨークのコロンビア大学に留学し英文学・教育学・史学を修め、州政府から米国加州外国人学校教員免許を受けた。12 年帰国、同年4月7日、笹森順造(明治 19 年~昭和 51 年、弘前生まれ)と弘前で結婚した。順造もキリスト教徒で、再興東奥義塾の初代塾長就任を在米中に受諾し、11 年に帰国、着任していた。

壽子は弘前女学校(弘前学院)で国語と修身を教えた。三男三女を設けるも長男長女は夭折。夫妻の教育界での功績は大きい。昭和 14 年、順造は青山学院

学長となり一家は上京した。18年学長辞任。壽子は、3人の子と弘前に数年疎開した。

順造は21年衆議院議員当選、国務大臣、参議院議員として政界で活躍し、小野派一刀流宗家でもあった。壽子は夫と家庭を第一に、青山学院高等女子部や恵泉女学園で教鞭をとり、定年後に歌集『むつのはな』(40年、題字は順造書)を出版した。

壽子は宇都野研の「勁草」(4年創始)に、6年から没年まで短歌・文章を発表した。弘前では、大沢清三の「和船」に発表、成田憲三らの「弘前短歌会」や「勁草弘前支部」結成に加わり作品はすでに注目されていた。勁草歌会を馬屋町の自宅で行なった。学識と批判力、ユーモアと謙虚、強靱な精神による表現は対象の神髓に迫った。宇都野研は「いつも斯く対ひてのみもあらまほし奥ある心持てり此の友」と壽子を讃えた。野の花を歌い空や月を仰ぎ、第一義としなかったが、終生静かに作歌を続けた。夫を看取り、病を得て、神のゆるしであるヨベルの鐘を聞いたと感謝の言葉を残し昭和56年昇天。享年84。弘前市宗徳寺に夫と共に眠っている。

3、資料紹介

○『むつのはな』

図書

1965(昭和40)年10月1日

130mm×187mm

昭和6年～39年まで925首所収。東京育ち・米国留学をした壽子が、夫の故郷の雪国弘前で、姑に仕え子を育み教壇に立つ昭和初年を感性豊かに歌う。後半は、東京で教育者・政治家の夫順造を支えた家庭や、自身の教職生活・信仰が穏やかに篤く歌われる。